7月度例会のご案内

若手経営者の会議運営術～ファシリテーション講座～

地域のリーダーとして青年経済人として個人の資質向上が求められます。

本事業を通じてリーダーとしての意思決定の仕方や効率的な会議運営、コミュニケーション能力の向上を図り、円滑な人間関係を構築できる青年経済人の育成を目的とします！

9月・10月度例会のご案内

9月の例会案内を8月7日以降、10月の例会案内を9月4日以降に社団法人町田青年会議所ウェブサイトより発信させて頂きます。

●社団法人町田青年会議所ウェブサイト
http://www.machida-jc.com/
こちらにアクセス！
理事長ブログも日々更新中！！

賛助会員一覧

- 有限会社PAM・J ホテル ザ・エルシィ町田
- 株式会社小田急トラベル町田販売センター
- 富士ゼロックス多摩株式会社
- NPO法人アスレチッククラブ町田
- 株式会社ジェイコム関東せたまち局
- 株式会社CASCAVEL FUTSAL CLUBE

2008年度新入会員紹介（入会順）

研修委員会	小峰健嗣	（株）創健　チームリーダー
総務委員会	栗和田真一	司法書士・行政書士くりわだ法務事務所　代表
まちづくり委員会	荻野正志	（有）ＳＯＲＡ　代表取締役
まちづくり委員会	溝上治	（株）ワタヤコミュニティー　主任
地域政策委員会	平岡卓	八千代銀行　町田支店
まちづくり委員会	足立勇	（有）アダチホーム　代表取締役
研修委員会	中澤勇一	中澤行政書士事務所　行政書士
地域教育委員会	落合康文	医療法人社団　町田高校前歯科　理事長
広報渉外委員会	宇野佳嗣	（株）エスペニア　専務取締役

社団法人町田青年会議所（町田JC）　新入会員募集!!

「明るい豊かな社会」の実現に向けて一緒に活動しませんか！？

■町田ＪＣとは？…20歳～39歳までしか入会できない青年経済人の集まりです。
■主　な　活　動…まちづくりや青少年健全育成をテーマとした月に1度の『例会』
「わんぱく相撲」「まちだ市民討議会」「ＪＣ杯サッカー大会」など様々な事業の企画・運営を行います。
異業種交流ができ、事業を通してまちづくりや一生涯の仲間づくりが出来る団体は他には絶対にありません。是非一度参加してみてください。

（社）町田青年会議所　TEL: 042(725)7565　E-mail: machidajc@msh.biglobe.ne.jp

MACHIDA JC Press
2008年（平成20年）7月号
JCI
Junior Chamber International Machida
Worldwide Federation of Young Leaders and Entrepreneurs

社団法人町田青年会議所（町田JC）は、我々の郷土、町田市の将来のあるべき姿を真剣に考え、その理想像に向かって邁進します。次代の担い手としての責任を自覚する青年（20歳～40歳）が集い社会発展のために運動を繰り広げております。

―　設立趣意書より抜粋

2008年度　町田JCスローガン

今こそ活かせ！青年の力

時代に求められるJAYCEたれ！

理事長対談

～地域における道徳教育・情操教育を考える～

子供の地域教育について

寺田　今回はこひつじ幼稚園で理事を務める傍ら、地域でまちづくりにご活躍されている、太田先生をお迎えしての対談です。先生本当にお忙しい中ありがとうございます。

太田　教育問題というのは人間の将来を決定づけていく大事な問題です。ご指名頂いたことを光栄に思うと共に果たして責任が十分に果たせるか、心配しております。

寺田　始めに「地域教育」に関してお話を頂きたいと思います。私たち（社）町田青年会議所では地域に根ざした運動を心がけています。自分たちの住むまちがより良いまちになる様に、そんな思いから子供たちに対する様々な事業を行っております。例えば今年もわんぱく相撲町田場所を行い400名近い児童が参加しました。その他にこれまでも環境対策運動や道徳教育事業なども行なっております。そんな中、地域で行なう教育の必要性や方法あるいは成功例など、先生が感じられているところをお聞かせ頂けたらと思います。

太田　子供の教育で、人間の将来の基礎形成をするところが幼稚園であり保育園であります。保育園も0歳からなのでただ人間形成と言うよりもしつけの問題です。家庭で負わなければならない部分なのですがなかなか出来ない。そういった問題を主に保育園は真剣に取り組んでいます。保育園の場合は乳児0～2歳の子供がおりますので、健康と遊びという非常に易しい活動の中で子供たちの育みを考えてます。3歳以上になっても言葉・用語の使い方は異なりますが、同じような取り組みをしています。知的面については学校教育の方に依存し、将来の人間性の基礎教育は幼稚園や家庭で育てて行かなければなりません。そうした中で環境に対する取り組みとして、JCが主となって立ち上げた境川クリーンアップ作戦は市民が一体となり行い、東ロータリークラブでは環境保全ポスター展を小学生と中学生を対象にしてやっています。自分たちの住んでいるまちを知ることで、町田にはこんなところがあるんだという認識を得て新しい町田を理解することが必要です。又、地球温暖化問題についても子供たちは南極の氷が溶けてしまっていることでペンギンが住めなくなってしまう問題などに非常に関心があります。子供たちも実際に物事に対して体験することが大事かなと思います。保育園を会場にした子供ステーションという幼児と小学生を対象とした場所で親子で何かを作成したり、又その際、親を別室に呼び子育ての相談など地域の中で明るく楽しくみんなが協調して生活できるような提言をさせて頂いています。

芸術文化の見える街

寺田　例えば小学校の学区域など小さな単位として地域での何かの教育を行っていくのも良いと思います。次に先生の考える「理想のまち」についてお聞きいたします。

太田　地域教育というのは、全ての事を学校に依存してしまいがちですが先生達も時間的余裕がないので、協力補充していく活動として地域教育の必要性は考えています。21世紀の町田の教育文化芸術を考える会を「ダヴィンチ・ミケランジェロの会」としてやらせて頂いたのですが、子供たちに芸術文化科学といった問題を教えたいが子供たちの傾向として理数系離れが出来ている。理科などは実験の時間を多く準備することで自分が発見する知識ですから喜びがあるはずです。

寺田　そうですね。日本は昔から職人の方がいたり物作りに関してすごく自信を持った国民性がある国だったと思うんです。

太田　町田というのは住み続けていきたいまちになりつつあると思うんです。子供たちが町田の良さを歩いて体験するとか、例えば竹細工など作る中で、こんなに竹があるんだと町田を見直していくとかね。大人になったら芸術文化の見えるまち。まち全体の中からそういった雰囲気がでている、そんなまちにしたいなあと思います。

寺田　そういうまちに住んでいるとすごく誇りに思えますね。

太田　「23万人の個展」なんかもいいきっかけになったんではないかと思います。

寺田　はい、町田青年会議所が中心となって立ち上げた市民祭で35年前になります。

太田　全国に先駆けてやったので、全

国からいろいろな報道機関が見学や質問に来たりしたと思います。

寺田　あの頃はまだ市民祭というものをあまりやられてない時期だったので、最初は苦労が多かったと聞いております。

太田　いろいろな方に協力頂いて、今でも全国に誇れる町田の代表的な活動だったと思いますね。

寺田　今でこそ市民祭というと色々な形で開催されていますが、もともとは町田が先駆けだったのかなと思います。「23 万人の個展」から始まったものが 15 年間続いた「まちづくりワイワイ祭」へ繋がっていきました。あの祭りも当日だけが祭りなのではなくみんなで作り上げていく過程がお祭りであり、出展者同士が仲良くなり交流できるものでした。

太田　運営する実行委員の人たちだけでなく、買い物に来るお客さんとの対話が非常に大事で、町田を広く知って頂くきかっけになっていたと思います。桜の時期は毎年お祭りがありますがその他の時期のお祭りも復活していいと思いますし、そうすればさらに魅力的なまちになっていくと思います。

道徳教育について

寺田　我々青年会議所もそういった経験を活かしながら、例えば形を変えて、様々なスポーツが体験できるイベントに出展して頂いたり、併設するＰＲブースや模擬店など市民祭の形で出店して頂いたりといった形式で、続けて行っていき、今後も市民の人たちを繋げるようなそんな JC でありたいと思います。続いて「道徳教育」についてお伺いしたいと思います。私の考える道徳教育というのは善悪を判断する基準であり生きる規範であると思います。道徳というのは教わるものではなく、子供の一番身近にいる両親や近所の大人たち、幼稚園や小学校に通うようになれば学校の先生を見て育つと思いますが、先生のお考えをお聞かせください。

太田　道徳教育というのは今、寺田さんがおっしゃられたように道徳と倫理の事も含めて話してよいかと思います。最近の傾向として一番悲しいのは簡単に母親を殺してしまう事件です。こんな事は過去に無かった。時代が変わったのかなと思いますね。道徳というのは倫理も含めて考えていかなければならない。人の人たる道ですからね。行為の善悪、不正を判断する基準を幼児の段階から分かり易い言葉で理解させ、行動でも体験させ、心で感じさせる。そういった活動に取り組んで頂けたらと思います。

寺田　町田 JC ではわんぱく相撲やアクション 2008 という事業の中で、挨拶をしっかりしましょうというのを１つのテーマにしてやって参りました。挨拶というのは人と会ったときの一番基本的なことですし、挨拶することによって自分を認めてもらえる、認めてあげる。そういった最初のふれあいのように思います。JC メンバー同士は挨拶というと必ず握手をするのですが、子供に対しても一対一でしっかり挨拶をしなければならないと思います。

太田　挨拶は和と輪をひろげる大切なきっかけであると思います。家庭においても親子の絆を深めていく大事なきっかけになると思います。園でも僕は子供を見ると挨拶や握手をするんです。昨日も少し落ち込んでいる子供がいたので「明日は元気で来てよ」とか挨拶して声をかけ、それが引き金となって明日元気で来るんですよ。それくらい挨拶というのは人間関係を深めていく力のあるものですから、しっかりやるようにしていきたいですね。

JCがすすめる「OMOIYARI」運動

寺田　青年会議所では「ＯＭＯＩＹＡＲＩ」運動というものを進めています。これは相手の立場に自分自身を置き換えてお互いを受け入れるといった心の状態を指します。お互いがそのような価値観を持てば、凄惨な事件はなくなっていくのではないかと考えているのです。それには先生が先程言われました幼少期からの倫理教育、道徳教育といったものや親の後姿といったものが必要になると思います。先生の考える「ＯＭＯＩＹＡＲＩ」をお聞かせ下さい。

太田　おもいやりは他の人間と比較することではないと思います。勝ち負け以外にも、ものさしがあるのです。運動会の一幕で、身体的に障害のある子供が皆と一緒に走ったんですが早く走れず遅れをとったんです。そんな中、言われたからではなく自分からクラスの女の子が一緒に歩調を合わせて走ってくれたんです。おもいやりとは結果を問うのではなく、その子がどれだけ努力をしたのかということを評価をしてあげることではないかと思うのです。子供たちは本来あるべき、弱いものを守ろうとする母性本能を必ず持っています。子猫を抱えて帰ってきたり、鳥の雛が孵化する瞬間を集中して見守ったり、命に関心を持っていてやさしい心を持っているのです。このような体験をさせてあげることで子供の心に響きを与え、何かを自然に芽生えさせれば良いのだと思います。

お父さんへのメッセージ

寺田　「情操教育」についてもお聞きしてよろしいでしょうか。

太田　人間の一生の美的感覚、感性は５歳で 90%も形成されます。ここでいう美的感覚とはファッションセンスとかいうものでなく、人間の精神面、知性面、感覚面といった総合的なものを言い、このことを情操といって良いのではと思います。

寺田　先生のお話を聴いていると、情操教育とは、道徳の中に含まれる何か人間が生きていくうえで生活を豊かにしていくための身につけておかなければならないものなのかと思います。まとめのほうに入らせていただきたいと思います。青年会議所の世代というのが 20 代、30 代で、女性ももちろんおりますが男性が圧倒的に多い組織です。ちょうど世代的に赤ちゃんから小学校高学年くらいまでの子供を持つ親になりますが、そういった世代のお父さん達にメッセージをお願いします。

太田　一番お願いしたいことは子供との対話。子供が家庭でわりあいお母さんにはどんなことでも包み隠さず相談することがあるんですけどね。父親には相談することはあまりないんです。幼児期にあんまりかかわりを持ってやれなかった。だいたい１年生の時はいっしょに買い物についてきたりしたんですけれど、3 年生くらいからだんだん自立の芽が育ってきて友達と行動するようになってくるんです。お父さんが今日いっしょに野球行こうよといっても、「今日は友達と」、と親といっしょに行動しなくなってしまう。そのへんから対話が途切れてしまう。ところが今度は中学から高校に行く頃になってくるとどこの学校に進学しようかやっぱり父親に相談する機会がでてくるんです。幼稚園の頃はふざけて遊んでいたその延長を途切らさないようにずっと続けていってください。子供たちが母親と同じように父親に何でも相談できるようなそういう対話を絶やさないことをお願いしたい。そのことを JC の皆さんが心がけていただいて、またそのことを多くの方に語り合っていただきたいと思います。

寺田　先生本当にありがとうございました。最後のくだりに関して我々子供を持つ親の世代として身につまされるような思いでしたが、お話をお聞きして自分の子供だけでなくほかの子にも JC の事業に来た子供にも接し方を学べたと思います。今日は長いお時間貴重なお話をして頂きましてありがとうございます。

発行所　社団法人町田青年会議所　編集　広報渉外委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067

4 月度例会報告　「覚えてますか？マニフェスト」

４月度例会では「覚えてますか？マニフェスト」と題して、石阪丈一町田市長が選挙時に掲げた「ローカル・マニフェスト」の評価・検証大会を開催しました。

青年会議所の単独開催としては東京初、全国でも前例の少ないこの「検証大会」は「マニフェストの進捗状況のチェック」を行うとともに、「次回市長選でのより高度なマニフェスト型選挙」を目指すという目的を掲げて開催されています。

開会後の趣旨説明では、候補者を自動車、マニフェストをそのカタログにたとえ、マニフェストは商品（候補者）の魅力を効果的に伝えると同時に、その性能（施策）について正確に記載してある必要 があるという切り口で、マニフェストのあるべき姿について考えました。また、マニフェストを任期中に評価・検証することでより精度の高い市政運営が可能となり、その積み重ねが明るい豊かな地域の発展に結びつくという、「マニフェスト・サイクル」を来場の皆 さんにご紹介しました。

続くパネルディスカッションでは、コーディーネータにマニフェスト研究の最前線でご活躍されている曽根泰教氏（慶応義塾大学大学院教授）をお迎えして、４名の市民評価委員によるマニフェスト評価・検証を行いました。壇上には石阪市長にもお越しいただき、第三者評価をお聞きいただきました。市民評価委員の皆様には事前に２回のミーティングにご参加いただき、石阪市長よりご提出いただいた「自己評価シート」をもとに、あらゆる角度からマニフェストの進捗状況や問題点について活発な意見交換を行っていただき、会場ではお一人づつ評価発表をしていただきました。

そしてディスカッションをお聞きいただいた石阪市長に、町田市の現状説明や市民評価委員から出た評価や質問に対するコメントをいただき、今後の市政運営に活かしていきたいとの意欲をみせていました。

最後のコーディネータによる総評では今回の検証のまとめと、今後継続して検証大会を開催してゆく事で、より高度なマニフェストを生む土壌が育ち、有権者が公開討論会などを含めより豊富な情報を得て市長選に臨むことができる、というマニフェスト運動のビジョンについてお話いただきました。

当日は悪天候のなか多くの参加者にご来場いただき、誠にありがとうございました。他地域での関心も急速に高まっているこの検証大会について５年後、１０年後の未来を見据えて、（社）町田青年会議所はこれからも続けて取り組んでいきたいと思います。

5 月度例会報告　「第27回わんぱく相撲　町田場所」

５月度例会は町田市制５０周年記念大会と銘打ちまして「第２７回わんぱく相撲町田場所」を町田市立町田第一小学校にて５月１１日に開催致しました。

「正々堂々たたかって笑顔であいさつ、今日から友達」というスローガンの下、子供達に日本の国技である相撲を通じて、勝敗だけにこだわることなく、自分の目標に向かって努力することの喜びや、悔しさ、痛みを体験し、共にたたかった勝者を称えることや敗者を敬うことで思いやりの心を育むことを目指しました。勝ち上がり喜ぶ子供達、悔し涙で大泣きする子、耐える子、慰める子、精一杯の結果に満足する子などなど様々な悲喜交々の体験を親子で味わって頂けたことと思っております。

さらに道徳心、公徳心を育むためには地域教育力アップが必要且つ重要であるとの思いから、地域諸団体や商店、個人の皆様方にご協力頂き、市民フェスタを併設し、記念大会に華を添えていただきました。「道徳心の育つ地域環境づくり」という課題を掲げ、地域協働の一つのモデルであり、実践の場としてわんぱく相撲町田場所を認識し、活用していただくことができました。そしてさらに、引き続き町田 JC の発信する子供達のための地域環境づくりにご賛同、ご協力をいただけることを確認させていただいた実のある場所となりました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、去年の参加人数を上回る３６４名のわんぱく力士の参加に加え１０００名を超えるご来場者がありました。町田市教育委員会の温かなるご支援の下、市内各小学校長の積極的なご協力により、わんぱく相撲はここ数年増加傾向にあり、地域の方々の認知度が高まってきていると思います。さらに当日ご父母の皆様方にお手伝いをしていただくなど、地域の方々の積極的理解も深まってきていると自負しております。

お昼のイベントでは『町躍鼓』による太鼓の演奏や、『グローバルダンスアカデミー』によるキッズチアリーディングによる演技、そして国士舘大学相撲部の学生による模範試合や子供達とのふれあい相撲など大会を大いに盛り立てていただきました。ご協力ありがとうございました。

さて、本大会で都大会代表に選出されたのは、次のわんぱく力士たちです。

●６年生　横綱　高橋 希己君　●５年生　横綱　土屋 孝二君　●４年生　横綱　藤田 路砂君

先日６月１５日に西東京市にて開催されました。「第２０回わんぱく相撲　東京都大会」では５年生横綱　土屋　孝二君が５年生の部で準優勝の成績を収めました。このことにより、８月３日に両国国技館で開催されます「第２４回わんぱく相撲　全国大会」に東京都選抜代表として出場することが決定いたしました。全国大会での活躍に胸をふくらませながら一回りも二回りも大きくなった彼らの勇姿にご期待ください！！皆様の熱いご声援を引き続きお願いいたします。全国制覇！！

6 月度例会報告　「ACTION(アクション)2008」

６ 月度例会では町田市制 50 周年事業として、地域全体が連携し創りあげる総合型地域スポーツの祭典「ACTION（アクション）2008」を開催させていただきました。

当日は、晴天にも恵まれ町田市副市長　町田様を始め、840 名超の子供たちの参加・2000 名を超える来場者にお越しいただけました。

今回の祭典は、会場をスポーツとコミュニティの２つのエリアに分け、スポーツエリアでは、サッカー・フットサル・野球・格闘技・テニス・ゴルフ・トランポリン・フィットネス・ウェイトリフティングなど 12 種目の様々な遊びを盛り込んだスポーツを選手の指導のもと、参加者に楽しんでいただきました。

コミュニティエリアでは、17 種類の美味しいお食事などを地域の企業・市民の方々に提供していただき、様々なまちの情報も発信していただきました。会場設営にもスポーツ選手や参加者自ら積極的にご参加いただき、また、多くの皆様に御協賛等の温かなるご支援をいただいたことで円滑な運営をすることができました。

当日、スケジュールの都合上、ご参加いただくことができなかった企業・学校・行政・関係諸団体の皆様には、実行委員会にご出席いただき、一人ひとりの想いや知恵を出し合っていただき、共に事業を創りあげていただきました。また、現役 JC メンバーには、部会ごとに関連諸団体との連携を図っていただきました。

賛助会員でもある FC 町田ゼルビア、ASV ペスカドーラ町田の皆様には、広報番組出演など広報活動や「ちびっこカップ」で、桜美林大学のソングリーディング部の CREAM の皆様には、素晴らしいパフォーマンスで、また、他団体の選手の皆様にもアトラクション等で事業を盛り上げていただきました。

前線で活躍するスポーツ選手たちの子供たちを惹きつける力には驚かされるばかりで、子供たちの輝いた瞳や笑顔、大人までもが一緒に楽しんでいる姿がとても印象的で忘れられません。スポーツで夢・笑顔・感動、そして心の豊かさを「みて・知って・体験できた」総合型地域スポーツの祭典となりました。

www.machida-jc.com
発行所　社団法人町田青年会議所　編集　広報渉外委員会 〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル'87 TEL042(725)7565 FAX042(726)9067